

令和3年度 研究推進全体構想

<穂積小学校の教育目標>

「かしこくて
あたたかくて
たくましい子」
自立力→進んで学ぶ
確かな学力 工夫
共生力→思いやりの心
認め高まりあう仲間
自己実現力→粘り強くやり抜く

<穂積小学校の児童の実態>

- 自身の考えを、図や式、言葉を駆使して説明する力が付いてきた。
- 考え方の違いや共通点に着目することで、深く学ぼうとする姿が見られた。
- ▲仲間の話を納得するまで聞いたり、聞き返したりする姿が少ない。
- ▲学んだことを次に生かそうとする意識までは育っていない。

研究テーマ

仲間と共によりいきいきと学び続ける児童の育成

～意欲をもって学び続けるための算数科の授業の工夫を通して～

<研究仮説>

算数科において、児童の実態に応じた単元指導計画の構成を工夫する。そして、深い学びを生み出すための課題化、全体追究、終末の工夫をすれば、単元を通して仲間と共によりいきいきと学び続ける児童が育つだろう。

・「いきいきと」とは

「どうするとできるかな」「こうしたら解決できるのではないかな」「何か他に方法はないかな」などと、主体的に学習に取り組む姿。

・「学び続ける」とは

単元を通して、一人一人が目的意識をもち続け、習得した知識・技能を活用しながら、仲間と協力して、自分たちの力で問題解決に取り組んだり、次に生かしたりする姿。

<研究内容>

- I 単位時間の役割を明確にした単元指導計画の工夫
- II 深い学びを生み出すための単位時間の工夫
 - ① 学ぶ必然を生み出す課題化の工夫
 - ② 仲間と共により深い学びを生み出す発問の在り方
 - 【特支】 深い学びを生み出す個に応じた指導・援助の工夫
 - ③ 学んだことを次につなげるための終末の工夫

研究を支える土台

- A 子どもたちが学び方の基本を身に付け、「分からない」「困っている」子を大切にできる学習集団作り
- B 「みんなで学ぼうほづみっ子」を大切にしたい、聞く・話す指導の充実
- C 一人一人の確かな学びにつながる指導・援助の工夫